

星野 貴行

P×P

松岡 浩正

Premium Partners

第1回対談



Premium Partners 第1回対談

工務店だから 追求できる 世界標準の性能

第1回に登場するのは、ドイツ基準の住まいづくりを推進する松岡浩正さんと、新潟を拠点にデザインと機能性を追求する住宅を手がける星野貴行さん。軽井沢の森にたたずむGERMAN HOUSE宿泊体験棟で、住宅性能についての考え方や今後の住まいづくりなどについて語り合いました。



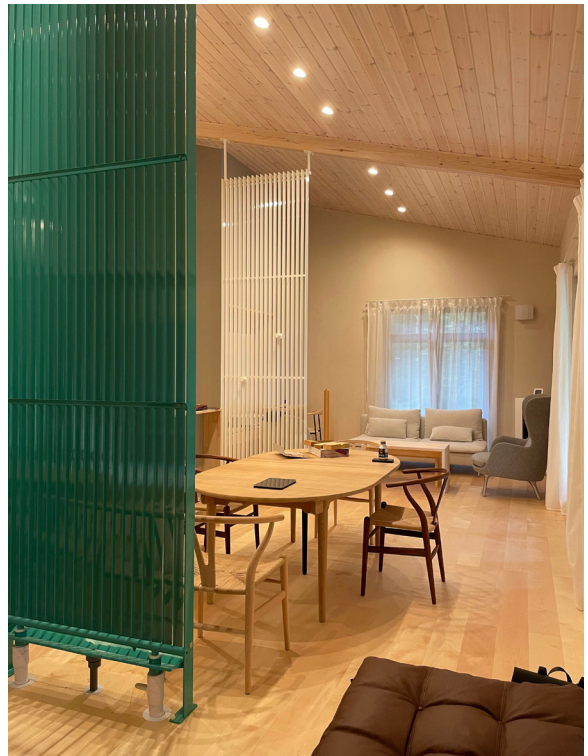
今回の対談場所である「GERMAN HOUSE 宿泊棟」は
軽井沢の森にあり、季節の色彩に包まれている。

—まずはお二人の住まいづくりの特長を教えてください。

松岡 それを説明するにはこの家を見ていただくのがいいかもしれません。SE構法で建てた木造ですが、室温は一年中23°C前後に保たれています。使っている断熱材は、壁、床、天井のいずれもドイツの木製断熱材ECOボードです。ECOボードは間伐材のチップを繊維状にして圧縮したもので、断熱性や防火性のほか透湿、遮熱、蓄熱、遮音といった特長があります。

窓はドイツ製の木製フレームにドイツのトリプルガラスを入れています。この組み合わせは断熱性能が大変すぐれ、部屋の窓際が寒くなることはありません。真冬の外気温がマイナス13°Cだった日も、室内の窓ガラスの温度を測ったら23°Cでした。結露は一切ありません。

暖房冷房はPSシステムで、パイプの中に夏は冷水、冬は温水を通しています。壁はプラスターボードに直接塗れるドイツ製の土の塗料です。室内の空気にはホルマリンなどの化学物質はほとんどゼロ。これが私の会社の住まいの標準仕様です。



PSシステムはパーティションの役目を兼ねている。写真右に大きな開口部があるが、真冬でも窓を閉めていれば窓際と部屋の中央部の室温は変わらない。



ドイツ製木製断熱材ECOボードのサンプル。4面25mmの凹凸により、接着剤を使わずに隙間なく施工ができる。



星野 うちが創業が1977年で、僕の代になって約20年になります。SE構法さんとおつきあいは15年くらいです。ずっと非住宅と住宅の両方を手がけていて、性能とデザインの両立という形でやっていますが、どちらかというとデザイン重視のご依頼が多いです。

松岡さんには、松岡さんがつくった経営管理システムで前々からお世話になっていました。何度かドイツ製の建材は扱ってきましたが、転機は2019年、新潟のカーブドッチというワイナリーのホテルをつくったときでした。

そのホテルではRCや鉄骨でやることも考えましたが、デザインのコンセプトに塗り壁や瓦の屋根があり、SE構法の木造でつくろうと思いました。けれども、壁がひび割れない、断熱性能が良い、遮音性能にすぐれているといった条件はホテルとして外せません。全部満たすのはやはり木造ではちょっと難しいかもしれないと思い、松岡さんに相談しました。松岡さんの住まいづくりはレポートや視察等で知っていましたが、実際にそのやり方で大きなものをつくってみたところ、今までとは全然違う感覚がありました。完成後の室内の体感的な心地よさも違いますし、メンテナンス上の問題も解決でき、個人的には衝撃でした。



新潟市のワイナリー、カーブドッチが運営するオーベルジュ「トラヴィーニュ」。
塗り壁はひび割れが発生しやすいが、ドイツ製の壁材のおかげで現在までトラブルがない。



2021年の竣工した星野さんの自宅。ジャーマンハウスの建材を使用し、ドイツ基準の住まいの快適さを日々体感している。

住む人たちの選択が日本の住宅業界を変える



星野 ホテルをきっかけに松岡さんが実践している脱プラ・脱化学の「木学の家」について詳しい話を聞くようになり、根本的に日本の建築のレベルを日本人は誤解していることが分かってきました。日本人の多くは「日本はハイテクの国だから、日本の住まいの性能は世界標準よりも高いはずだ」と思っていますよね。でも実際はそんなことはない。耐震性は、SE構法のように構造計算をする住宅に関しては良くなってきたであろうけれども、全体としては世界標準より上とは言えません。

松岡 今後10年ぐらいで日本の住まいの基準は変わってくると思いますよ。

—星野さんは現在、松岡さんのジャーマンハウスの建材を使った住宅の標準化を計画されているとか？

星野 僕の場合、時間もお金もかけてイチから設計し、使う材料も毎回選ぶような、こだわりぬいた住まいづくりができることが強みです。でも、性能も大事にしたい。住まいのプロフェッショナルとして、よりレベルの高い性能を選択できるようにお客様を導いていきたいと思っています。けれども、1棟ずつ全部設計するようなやり方で世界基準の性能を選べる人はすぐに限られます。つくるほうも大変です。ある程度デザインに自分らしさを残しつつ標準化して

いけば、価格をある程度抑えた形でより広い層に世界的に見ても高い基準の性能を提供できるだろうと考えています。

松岡 星野さんはデザインにこだわり抜いた仕事をしているなと思っていました。SE構法の工務店にはけっこう多いタイプですね。特殊なものをつくる力を持った方たちだからできるのでしょうけれど、それを継続するのはなかなか大変です。今後標準化したものをつくるのは大正解だと思います。

標準化したものは直し方も標準化されます。アフターメンテナンスが発生して対応すると、同じ現象が起きないように改善しますよね。標準仕様を変えたり、施工マニュアルや検査方法を見直したり。それが標準化のメリットです。改定して是正していく。そうするとだんだん問題が発生しなくなる。プロセスを辿りながら、未来にリスクを残さない改善がどんどんできる。

星野 未来のリスクが少ない家は計画から廃棄までのライフサイクルコストで考えると経済的、ということを理解してくださるお客様はきっとかなり存在すると思っています。

松岡 お客様は会社が何を目指しているのかちゃんと見て、選んでくださっていますよ。今、以前に家を建てたお客様からアパート建設を依頼されることが増えています。「自分が住んでいる快適な環境を若い人に提供したいから」と。私たちのコンセプトを理解したうえで、世の中に広めようとしてくださっているんです。

星野 日本はこれまでスクラップアンドビルドでしたが、注文住宅をつくれる人が少なくなっている今、これから建てる方々は住み継ぐことや将来の転売を意識するだろうと思います。その方々の選択が日本の業界を変えていくかもしれません。



星野さんが手がけた住宅。素材にもこだわり、住む人の思い描く豊かな暮らしをデザインに落とし込む。

つくり手のポリシーを選ぼう

—これから住まいづくりをされる方に、大切にしたいと思うことは？

松岡 やはりその会社が何を目指し、どういったポリシーでどのような家をつくっているか知ることでしょう。私たちは、長持ちをする、安全で快適に住まえる、未来の環境に負担を残さないといったコンセプトを持っているので、お客様はそのコンセプトにブレない家づくりをしていることを評価してくださっていると思います。

星野 時代は変わっているので、先々のことを考えることは大切ですね。私が子供の頃と違い、今の日本は本州でも夏と冬で40～50℃の差があります。今後はさらに寒暖差が激しくなるかもしれません。また新しい住まいの性能基準がつくられるでしょうから、それに合わせた改修ができないと住まいの価値はぐっと下がってしまいます。そもそも断熱材は経年変化で劣化するじゃないですか。二十年後、三十年後も改修で快適に暮らせ、価値を維持するにはどんな選択が可能か、という視点が必要ではないでしょうか。



第1回対談のおふたり



松岡浩正

まつおか ひろまさ

GERMAN HOUSE株式会社 代表取締役

1961年生まれ。高知県出身。情報処理技術を学び、住宅会社に入社。独立後、1990年より高気密高断熱の住まいづくりを手がけるとともに、建設業経営管理システムを開発。また、ドイツ基準の高性能住宅を実現するドイツ製建材を日本に紹介。著書『木学の家』(現代書林)他。住宅会社のネットワーク「環境建築人」代表。現在は建設会社であるECO HOUSE 株式会社を運営しながらも、環境建材の普及活動、経営管理システムのサポートを中心に活動している。

GERMAN HOUSE株式会社

〒333-0802 埼玉県川口市戸塚東3-2-28

TEL 048-291-0666

従業員数:13人

設立:2002年

<https://www.germanhouse.co.jp>



星野貴行

ほしの たかゆき

株式会社星野建築事務所 代表取締役社長

1977年新潟市生まれ。一級建築士。学生時代アメリカで5年程過ごし美術などを学ぶ。父の他界により帰国し、2代目として株式会社星野建築事務所に入社。住宅・商業施設を問わず、ディテールにまでこだわったデザインと高い性能を両立させている。一般社団法人耐震100%実行委員会理事。

株式会社星野建築事務所

〒950-0948 新潟市中央区女池南3-5-1

TEL 025-281-1599

従業員数:10人

設立:1990年(創業1977年)

<http://www.roomz.jp>

重量木骨の家

PREMIUM PARTNER

重量木骨の家

重量木骨の家プレミアムパートナーが耐震構法SE構法を利用して建築する資産価値の高い家の総称。地域の気候や環境を熟知した地域密着の工務店・住宅会社に設計・施工を依頼するメリットと、第三者機関による現場検査、完成保証、長期優良住宅認定等ハウスメーカーに遜色ない性能・品質・保証を併せ持つ家のブランドである。

高いデザイン性、優れた住宅性能、充実の保証内容で、住み手の希望を叶えるワンランク上の妥協しない木造住宅を提案している。

重量木骨の家 プレミアムパートナー

株式会社エヌ・シー・エヌと連携し、資産価値の高い家の普及を目指す提案力と技術力を併せ持つ工務店・住宅会社のネットワークである。全国から選び抜かれた70社(2022年3月時点)が、研究やプロモーションを、ネットワークを通じて行っている。

また、定期的な勉強会や有志による研究会など、最新の知識や情報を取得・共有し、日本における安心・安全で資産価値の高い家の普及を目指している。

重量木骨の家

耐震構法 SE 構法

優れた住宅性能

PERFORMANCE

高いデザイン性

DESIGN

充実の保証内容

WARRANTY

詳細はWebsiteをご覧ください

<https://www.mokkotsu.com/>



N C N

new
constructor's
network